

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里北中学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「英語」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
英 語	学習指導要領における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やりとり〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

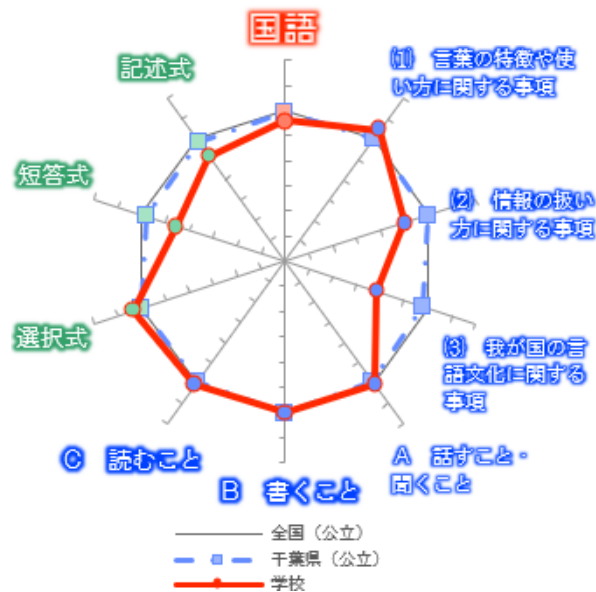
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



【特徴と現状】

全体としては全国平均に近い値を示しています。

テストの解答方法としては短答式（言葉で答える）や記述式（文章で答える）が苦手なようです。逆に選択式は平均値を上回っています。

指導事項に関しては「情報の扱いに関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」が平均を下回っています。具体的にはグラフや表などから情報を読み取る力や古典を読む力がさらに求められます。「言葉の特徴や使い方に関する事項」（漢字や語彙力）は平均値を上回っています。

国語の3技能「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関してはほぼ平均値を示しています。

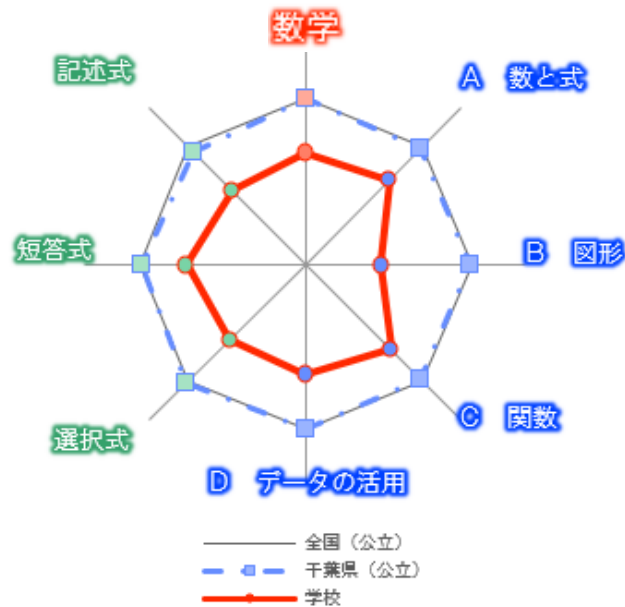
【改善方策等】

「我が国の言語文化（古典）」を読み解く力を高めるためには、日ごろから読み慣れることが大切です。生徒が古文に苦手意識を持たなくなるように、図書室等を利用して古典の作品に触れる機会を増やしていきます。今昔物語集や宇治拾遺物語等の短章を読むことで認識が広まります。

「情報の扱いに関する事柄」についてはグラフや表から情報を読み取る力を高めることが大切です。国語科の授業ばかりでなく、社会科や理科の授業中にグラフで表された情報を言語に置き換える学習を推進していきます。

解答方式では記述式が苦手な生徒が多いです。日ごろから文章を書く習慣が身につくように指導していきます。行事に際しての作文や、意見文を書くことを通して筋道を立てた文章を書く力の育成を図ります。

数 学



【特徴と現状】

すべての項目で全国平均を下回っています。「数と式」は計算の基本的な内容にかかわる単元です。正負の数や方程式の基礎を復習する必要があります。「図形」は特に大きく平均値を下回っていますので、多くの生徒が基礎内容を復習する必要があります。「図形の合同」等の内容を再確認する必要があります。

全体的な傾向として先ず数学的な語句・用語の意味をしっかりと理解できていない点が顕著に見られます。さらに「図形」では説明することや証明することが苦手な生徒が多い傾向にあります。また「関数」では、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る力が弱い傾向にあります。

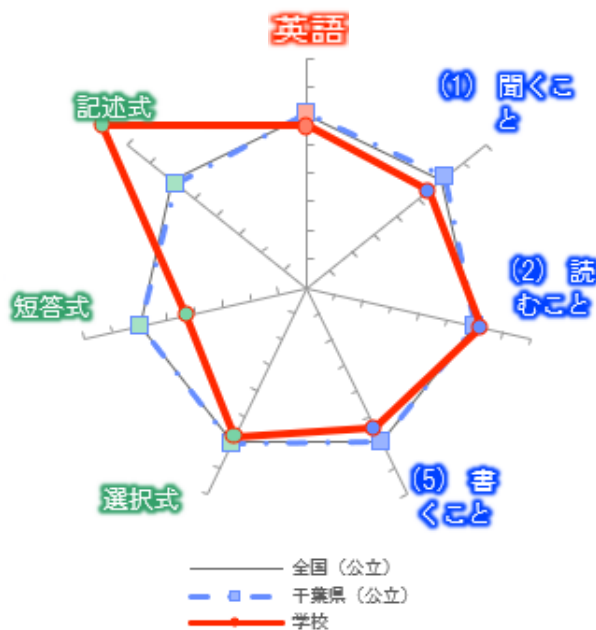
【改善方策等】

基礎的な正負の数や図形の問題をもう一度解き直す場を設け、ドリル形式の計算練習等を繰り返し行い、計算力や図形の基礎問題を解く力の向上を図ります。また、授業の中で積極的に先生に質問する場を多く設け、早期の疑問点の解消に努めます。

学校では数学的な語句・用語を生徒が確実に理解できるように、より丁寧な指導を実施します。また、説明や証明は生徒同士で互いに説明し合う場を多く設定し、苦手意識をなくしていきます。

学校では定期テスト前や学級優先日に補習を実施し、数学の学習方法等で悩んでいる生徒の学力向上を図ります。

英 語



【特徴と現状】

全体的には全国平均とほぼ同じ値を示しています。

解答方法では記述式が高い値を示しています。短答式は若干全国を下回っていますが、選択式はほぼ同じ値です。

指導内容に関しては「聞くこと」「書くこと」がやや平均値を下回っていますが、「読むこと」が若干上回っています。3つの内容がほぼバランスよく身につけているといえると思われます。

特に読み取りの力は全国平均を上回っています。また問題に対して全く手を付けないということもほとんどありませんでした。すべての生徒が最後まで真剣に取り組んでいました。

ただ聞き取りの問題に対しては全国平均を下回っていますので今後、指導の工夫を図っていきたいと思います。

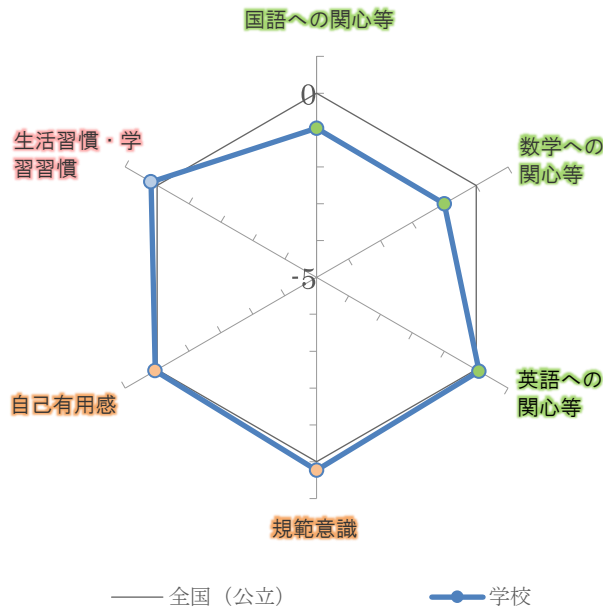
【改善方策等】

解答方法の短答式が若干低いので、単語練習等を増やし語彙力を高める学習が期待されます。授業中に自己の体験等を英作文で表現する機会を増やして、表現力をさらに向上させたいと考えています。

読むことは今後もさらに教科書等のリーディングを繰り返し行うことで安定した実力が身につくことでしょう。授業の中では教科書のパートごとにTF（内容を確認する問題）やQ&Aなどの内容理解や表現問題をALTとともに取り組んでいます。ALTによるチェックは効果的であり今後も継続していきます。

今後はさらに英語に触れる機会を増やして、英語への興味・関心を深めたいと考えています。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

国語や数学への関心が若干低いようですが、英語への関心は平均値を示しています。

生活習慣・学習習慣はほぼ全国並みの値を示しています。「激勉カード」を活用して日々の学習時間を確認している生徒も見られます。

規範意識は全国より若干高い値を示しています。

自己有用感ほぼ全国と同じ値を示しています。家庭での役割をしっかりと果たし、学校でも係の仕事や委員会活動に意欲的に取り組んでいます。

3 まとめ

全体的に見て国語と英語はほぼ全国と同じ値を示しています。しかし数学がどの項目も全国を下回るという結果が出ています。本校は数学が苦手だという生徒が多数存在します。また、基礎的な数学の学習方法が身につけていない生徒も見られます。学校としては授業でのTTや補習を実施して改善策を講じていますが一朝一夕には伸びていきません。今後も継続していきます。

本校生徒は前向きな生徒が多く行事等を通して自己有用感を育んでいます。また、行事等での成功体験から達成感を得ています。また、規範意識高く、学校のルールや遵法の精神をしっかりと持っている生徒が多いです。多くの生徒は正しい生活習慣を身に付け、充実した家庭学習を実施しています。